Kodak Gray Scale

C Y M

© Kodak, 2007 TM: Kodak

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

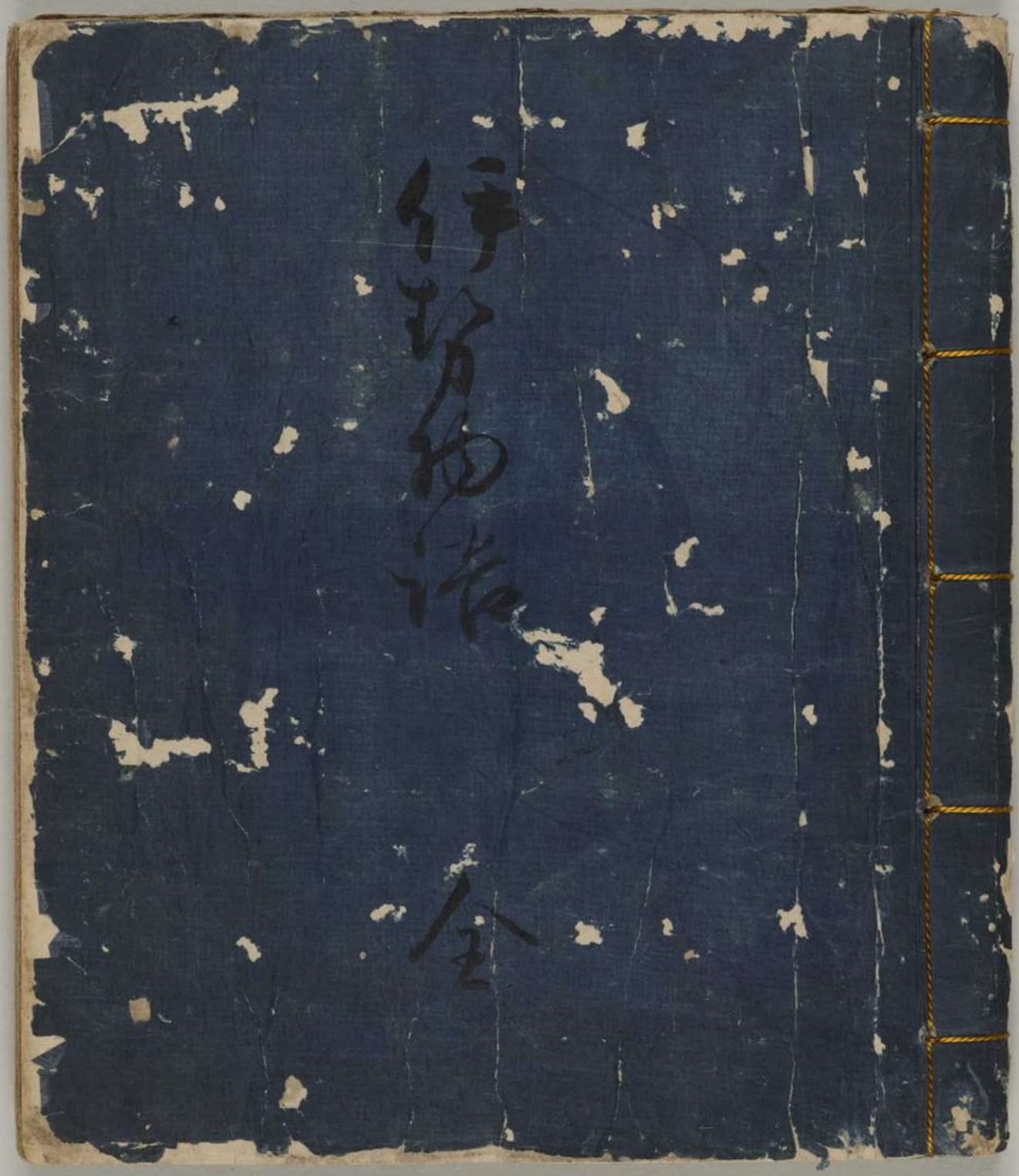
inches 1 2 3 4 5 6 7 8

cm 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19

Kodak Color Control Patches

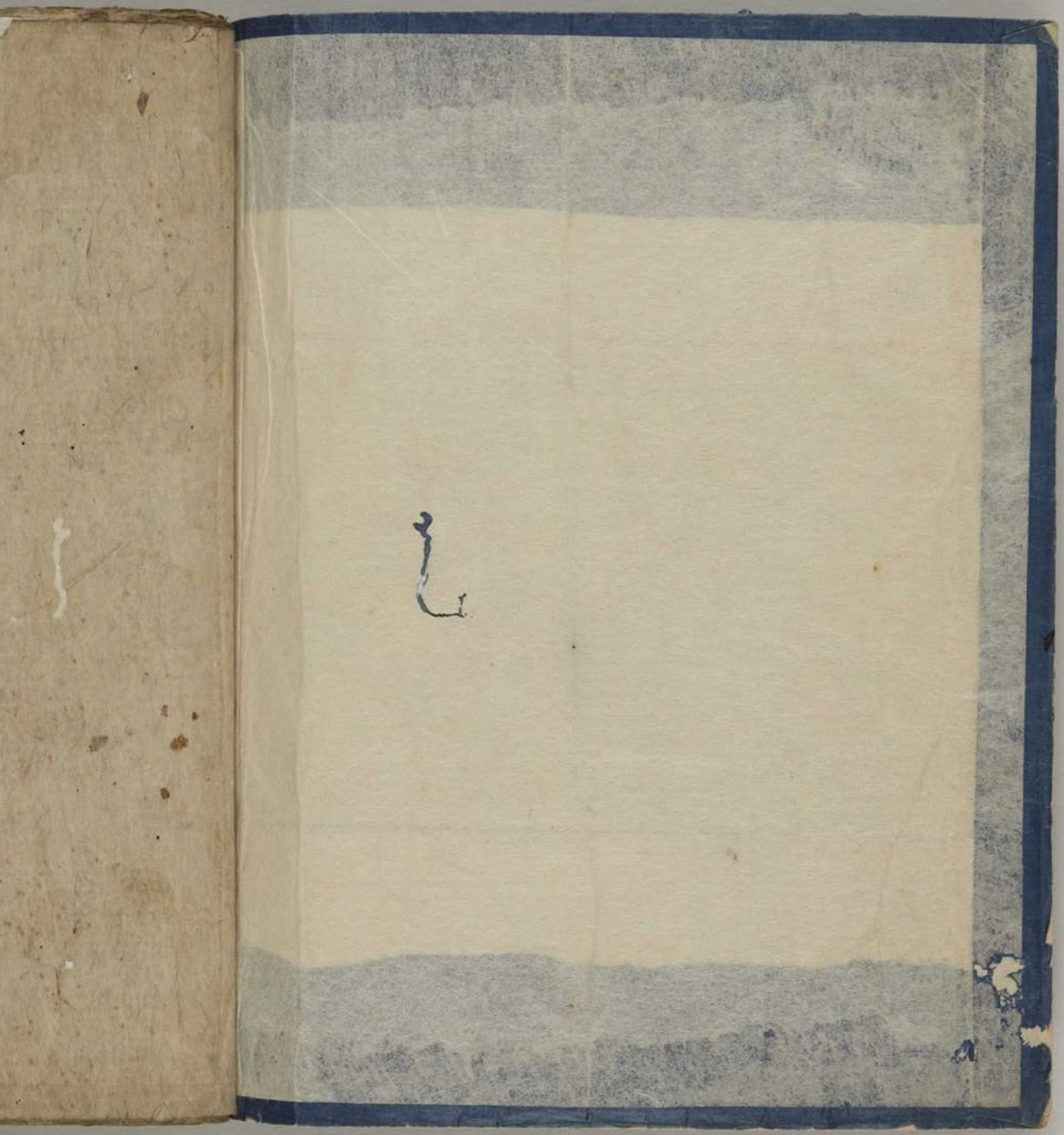
© Kodak, 2007 TM: Kodak

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black



伊勢物語

都留文科大学附属図書館所蔵



八場之図

全

一

むかしおとこありけり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

そときちうしうとうとうと

うくいちくわやきこうやびとるもけりく
しておくこけりくあるけ京いと
なるミこの京さ人の京きこけくま
産さわりくの時けりくこの京と女あ
つまりくわたその女世人ほはまさわりくわ
ちこの人くくちくまくわいたなもけりくわ
さわ者くびくわけくくもあくけくわ者
らくそ色とくのまくおくくくちくまた
くくいくう色くわさくいくくおくいく

時ハやよひの比いくちくあくそとゞ
けりくこの屋くわ者く

三月

時はやよひのはじめつかたのことなれば

花もまだ

三月

三月

三月

二條殿のまさもとのきみとかたらひ給
ふ事なりけるを人しれぬ
そらまりけるけのことなり
四
やげつのゝ
ひとりゐしの五条よりおはまさし
乃えおりゐまりあるかりの名いは
とも人あるかりそ拾とかへかは
あるで九月ぬるつとけり人まと
ぬるへ者と月乃十日ぐらゐ
れくよりおくれよ者あるくこ
ろはまけど人はまさらふ
こころもたらざるをば

れば
ゆくすえもあやぶくこ
ろかきけどうたがはまくらうとをき
こころうもたうざわるをばかぶり
しくもあひたくなしあわるるみの
としもつもるかたちわさ
ぞとこひてゆきてかたらんかたてこ
ろをこそにおぶべくもあらぬ
うちかきてあぢくなるうぐいすに
月かくさんとあるをこそ
おもひこそよめ

月やあらぬ春やむかしの春ならぬ
わが身ひとつはもとの身にして

こゝろ見えぬものかなしけれ

なにしおはゞこゝろもとまれ

五

ものおもへばこゝろもとまれ

ものおもへばこゝろもとまれ

ものおもへばこゝろもとまれ

人をもくるしめあるゝ物なれば

れば物あはれ

[illegible]

人をばくもあるゝ物ぞとおもひ[illegible]

れば[illegible]さてはあれうのよ

ひちぢよ[illegible]ごくよ人とをとへて海も

[illegible]せけるとばかりえあらでうるわ

[illegible]

人をばかうひちぢのせきもあ

[illegible]

とよわかれば[illegible]

[illegible]

よるのびてよのうりあるとうのきこ
えいりわけもどせしとうそうもしあり
せうまうひもあるとうで

六

ひとりおとこあるわりわ女あるうまは
じかりあるとうはらうとうまうとうし
からうぶてあるこうこうてあ
るうんぶきこまきりあるうあるうぶ
うくとあてうきけもこは草はうか
をきこうあるつゆとうもうこなふ
うくたんあるこうこうんあるゆう
さうきうはいくあもうもうはうれば
あるうくうこうとうきうで神さ

ちとせをかけてこそ
ちとせをかけてこそ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

八

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

九

[illegible]
[illegible]
[illegible]

つまのばかりにすがたをみるご
とく思ふことなりあるひとのたの
しびをつまとしてをとこをみる人
なりけりあるひとの人のもとよりよる
きてしのびて
すがたかたちはいとをかしうてにも
ものをいふをみるに月のかげのあ
かきに雪のいとしろくふりたる

時ものいはずよりてう
めこまきうに雪のふりたる

時しらぬ山のみねにはかつ消えて
雪ぞふりける
白山の山のよそへにいとゞ
ちぢにわかるゝねをぞなくらむ
ながれてはいとゞかなしきあわゆきの
かゝるうきよにとまりてもなし
あさのくらのゆにくるまさかの河
あるうとをすぎぬるかとそれのの
かりくるよりもとめてもとまらぬ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人丸をとわてしもよろしいとれば

なしいやこゝろをくるふときゝて

なわ〳〵おとゝぐこゝろをいとやこゝ

ひとゝ思ふ人はあわやはしやとゝ

よわけまてに舟こゝをわてたなきり

ゆるわ

十

ひとゝおくこゝろをしれふまて海ゝ

あわきりわさんをあらふたなあを

よをひをちくいとゝ人あをせんと

ひあをとはなしあてなりへよん

[illegible]

[illegible]

[illegible]

わがすまよりたくたちくるみく

あのもかるとりけるとん
こたしと人はらふてもたはらふこ
しくなんやはしばわまへ

十一

むすかくこあげまんゆきけっよ友たち
どりとみちしらんひとこせそふ
わとたなよかくいはらあくたあみ
こんゆく月のちらあふまん

十二

むすこたはまへ人のとちとよ
とくこてもろ野へあてゆかれあとべ

なわけをばくわしくあきらめしるべなりわ
女をば学むしの中にときんにてにぞに
あわ見ちらふ人このいあとへあなわ
しんて決にあんとしとなるべして
女
むさし野にふいたやきんまの学の
ミちおもこころわ我もこのわわ
とうあんどきくて女とうわてこも
ゆわていとうわ
十三
むさ母さうたなかとこ京から女房と
きこの男はたりきこ京に称ぐく
ゆしくうきて うとぐまよむさ

ひとりまさりたるをとこ京なる女ばらの

きこえあはせたりけるを

はるばるとうきたちくるものをいとかくのみ

人をうきものとおもはせてはたれかはうきを

なげくらむ

4

ひさしくわたりこねばとてをとこの

ものいとうらめしがりてよこしたりける

返事

とりのこのこゑはたがこゑにかはるらむ

とつぐとはねにうちもなきけむ

十四

ひとおとこ　みちのくにの　すずろなる
こころのまゝにわれをこがれる　女房の人をうらやましがるやうにおもひ
ながらもあしからぬ　ものとおもふ
人なしにわれをこがれる　さてのち女

女　中りよ　恋にまどはしくるかこそ

万　なにはべにわれをこがれる　ものをいふ
うらはぐしなびけるわけの　ちとぐ
こころ　思ふ　人　きて　弥　ものを

歌　出　けるとは　女

女　夜もあけばきりぎすはなくべくなり

[illegible]

[illegible]

十七 夜もあけぬべきなれば

まぶなくにかきてせおとをつつ

みてつつとおくこ京(かしまくぶん

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

十五

[illegible]

人のかたちにあらはれたるやうに
とこそいふべきものなりけれ
そのふしのびてかくれたるもの
人のかたちにあらはれたるやうに
世をぞかなしくうべかりけるものなりける
ちからをえびとをばとみくにふるに
せむとぞ
十六
ひとまのあるにひとりあるに
みなのあるにとりあひ
それぞのちは世のうつりゆきにまかせ
ものつひのかたちにあらはれ

みよの人々とたちまちに消あひ

それぞのちゐ世うりの消こはまれ
ごとのつひの人々なりごもりの必ず
をんうりくだりはうたりことと
このことこと人ともにどまげしく
つくもたりもしよりー時のんな
ぐくりのつひのくもたりどくこころ
あひかもくら女やりくこくもれて
はのよまたりてあ物のくんぐち
てなりくこころゆくとおくこまを

こゝとゝもひつゝきさいこゝとゝもあれ
いまつゝゆくとゝこゝあれゝ思ひ
ゝ海ぞしられぐとゝざとゝ
りもあり人とびて移へこゝかゝひを
ゆゝ花ぶちかり、ゆかりなむ
いてもとゝなふぐとゝもいちなり
こゝとゝもせて代ゝ手おゝ年て
おゝ
ひとゝおゝてゝひすゝとゝかゝ
ゝとゝとゝひつゝゝ色ゝ
ゝとゝとゝとゝとゝとゝ

ひとをもてあひすることかぎりなき

ことをもてあつかひ給ふ

あるときにはとかくこまやかに

しなしてとかくあはれ

よ物語

うつくしきことをもてこころいきをとる

つくしまびえをもてのこさあるん

かくつひにはかくのごとくなれば

こゝろやこゝろあるものをもてこれ

えらびみまほしくこれまでもてけり

よはこひてそとんでゐ

秋風ふくやまぶきの

ちりぬるを

たちいなりてゐまちにぜそしら

七

ゆしこころとつまちの者の人のさく

乃さくわにはつきてるをれいたり

女

あぐかわくえとれさそはさら花

ミえん

ちいはかりの人ともちりわ

ゐ

ちりぬるを

ミえんとゐ

ちりぬるをわかよたれそつねならむ

ミえん

きえんどはわらはら花とみまや

十八

しらなまんわる女あるの者のなこち

十八

きさんどはかりとみまや
しらかなまんそうの女あるものおとこち
そうあるうとあるこしもしかなる京
出はんこしもしてきさんの花のうり
ろうとおもてあそこのくるしの屋
くるなのたにかはいはしきさの
えてしもくはよるくもゆ
おとこ之ものしもしもよるの
くれの井にかはりのしの出きさ

十九

ものおもふこころはたとへてもいはんかたなきに
ぶつもちたるものゝ人をたのもしうひさわ
ふるものかなくもたくまこにはるのお
なじ一雨のれいはのちのはをゆめのう
ちにかくこいはるおもひくもりひくらども
廿

あまのはらはるかにかすみのかなゆくら
ひとりとりかいつゆゆゆのう
かゝよりはれいおくこをせ

廿九

あまのはらはるかにかすみのかなゆくら
我めの山のはるのかすみなる

わまやらはれよりもうとは
秋のゝ山の月をみるたに
とゝまるけりいなをこゝろ人なん
ひとり
ゝ
ひとりおもこやまとにあるあをよ
ぶひてあひ事をうけてほゝてをき
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ
ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

うかべんとてこそ
ながれてゆき
ゆくへもしらぬかなしさは
ながれ者にうりことはかりもあり
えんにうかれぬる身なりけり
なすひるまき世たりけるを月を
みてよりまきてはれやとまひし
ゆくへしらずなりにけり
人をつきありはやとこんなまぐ
ありけりのつとみるにつけ
こんなまぐひとしてあり後しを
ひてやらるる人うらをこせて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

女

女

女

おもくこ

なりけり

秋乃歌よりちよと一歌よ

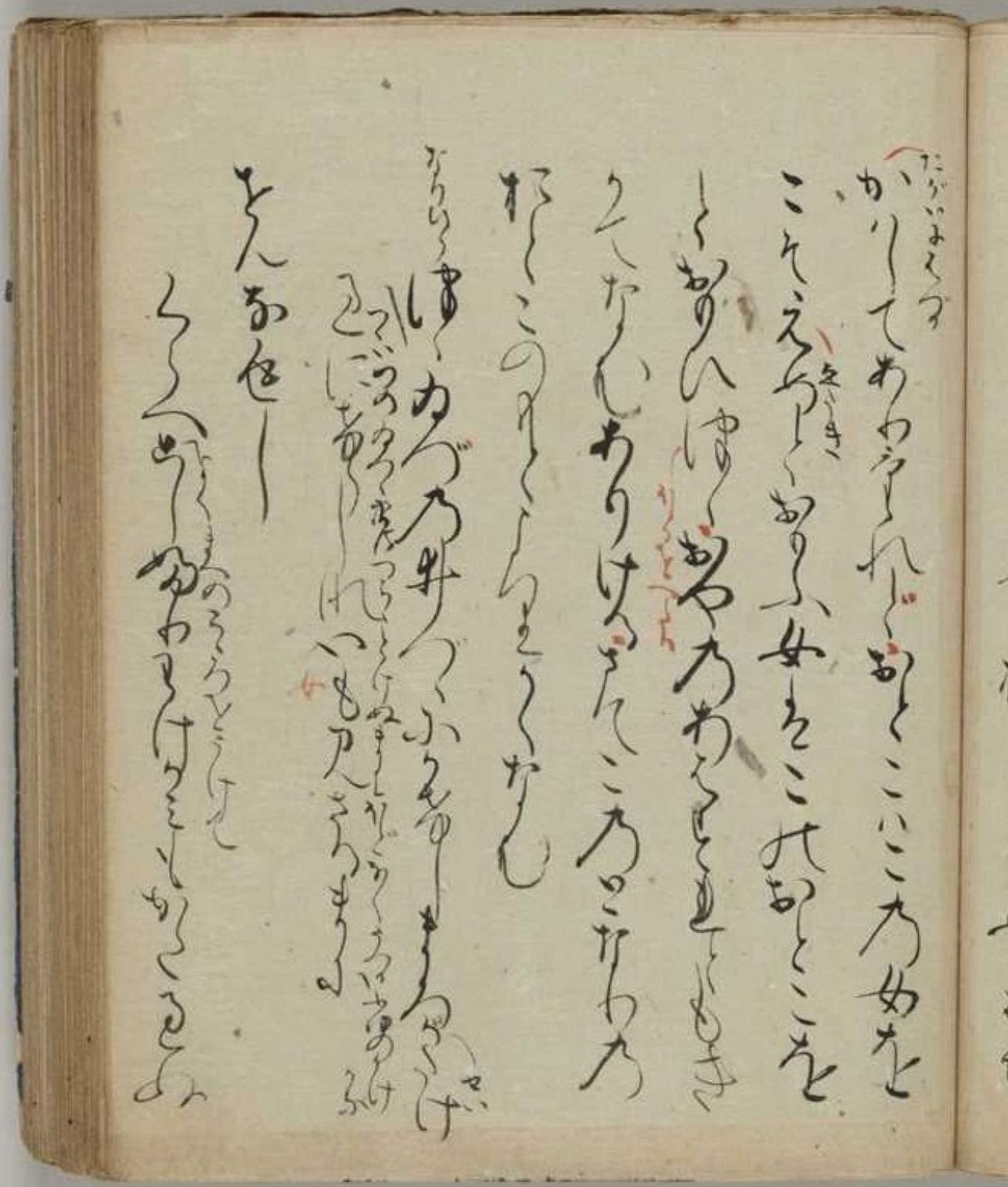
やちよのし[illegible]

女

[illegible]

[illegible]

[illegible]



[illegible]

[illegible]

[illegible]

ありてとぶらひあへるあんしつ
ひてせしさいかまにてくれなゐ
ちへいかうふれ乃ゑにこかなてう
銀をかけどてうちたりてう
女
ゆ
ゆ
ゆ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

女

[illegible]

女

[illegible]

十五

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

いろこのこなんなれば　れんこきんこのこ
みちかれ和尚とうとしと　そこ孫や
れんなんぢあれば　ゆくゆくれ
廿六
ひとり　おとこ五障　ちかわ者　女を
えらびかしよ者　ひとり者
人のうりこと
なりなり　おもわしと　独ゑみ　ふけふ
えこきんのもの　ちりちり
廿七
ひとり　おとこ　女のりよひ　おいきん

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

世一

世二

むかしあるところに男ありけり

たえこのほどもいかゝとおもふ

男ひとりぬるかなりけるに

きたりける女のもとにて

なをせんこゝろまもるたまうけ

ゆきてこゝろみんとおもふ

男おとこのこゝろなきなる女の

あるにうちとけてやすびけん

まれなるをとこひもとくわさをも

[illegible]

[illegible]

[illegible]

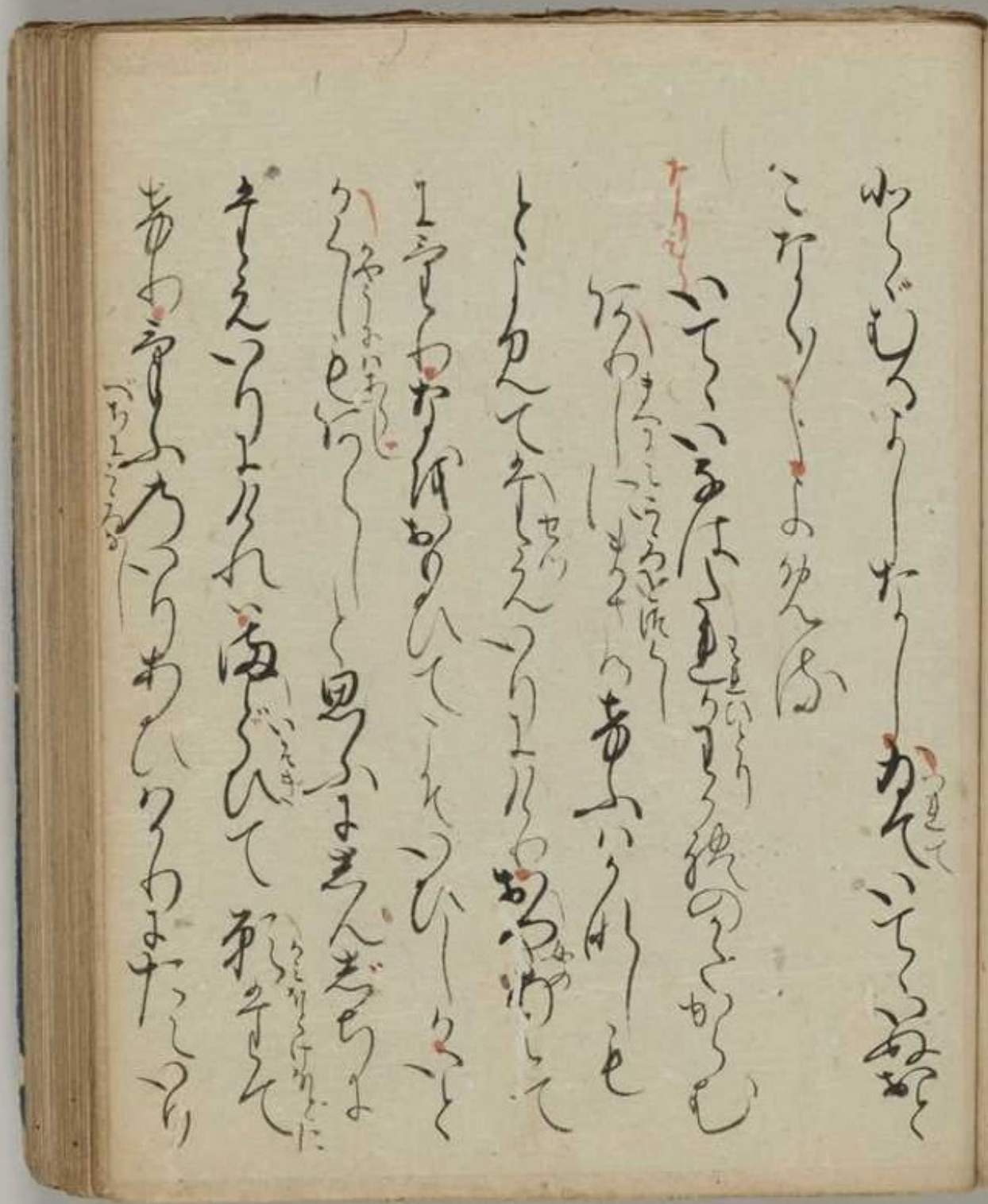
なるとは世の人とこたふとも
とどこのりをとどこのりをうかいまる
立てしるよりつくしの
我しも
世九
ひとさいわいの人のてをまとみてを
りもしらわうれの人をこの人こそをらい
こをくしとくいまれもいまわうの人こ
をたまひしておうひをくふひわれわうの
うをのつこたわりをのかなをいをうをふ
ひわ人ひをてををくをまをあひのりをそ
をわをあをくをひけをうわをいこをを

まつどうちかれて屋とあべかわけら
わひぐさたらのまくらなごれ源氏のさ
ゆくふ人こまとおろろとれるまと
女ろもとそくもわきて山ろう庵
ろくわひさとのくふかわらをくわ
て女ろもふこまとも者ろとろま
なり者ろ人これからのくもす火よ
やんゆんとり者ちかしどふ
くそのわろおくろのよゆろ

いでくはやくりのこけどはるのぶりたるぶき
年月をわたりこくり者ち
年月をわろくなくおどきけ

いでくいなばのをぢはやうくまわたりこしかりぎく
年月をへてかくとだにえやはあふみちのくのあだちの
のまろやせし
ゆくへもしらぬあづまぢにまどろむほどもとぶらはで
あはれなりしかくまでこのこゝろをしらでいる
とぶらはぬあづまぢにまどろむほどもとぶらはで
なりぬるこゝろかいなしうげぐぎくなり
四十
ひとりゆきあづまのくにのあだちの

[illegible]
[illegible]
[illegible]



てみのうのいぬのはぐるまにのりからしの
でいまいとしてあるひしゃげてとぐるを人は
さふらふとびきおのおのひとなしえをけの海
のおまんしまさしにえかんや

四十一

ひとりかなしかりけるあるひとりびとら
いやしきおとこのまちしきひとる
こあてたるおとこのこゝろあるいえし
きおとこのこゝろなるをあはこゝもと
ようのきぬとあるひてるかるる
あるんたりいとれたるやし
きわさしたるいとうけるこのさま

ようかきぬとあるひてるかうそ

あはんけいこそ年ふれとちるやし
きわさとなるいろけもこのきの
のこきさらはてはわせんこのく
てそこだれしなきこあはこもとの
あてなるたくこまてつこ心こるし
つもけもいこきらるなるろしちる
ひうるのきぬとんこ見こて
なるしちまのなこきけをもそこに
こまん　野なる草ホそまるれるけこ
里　なるの一ふいまんと

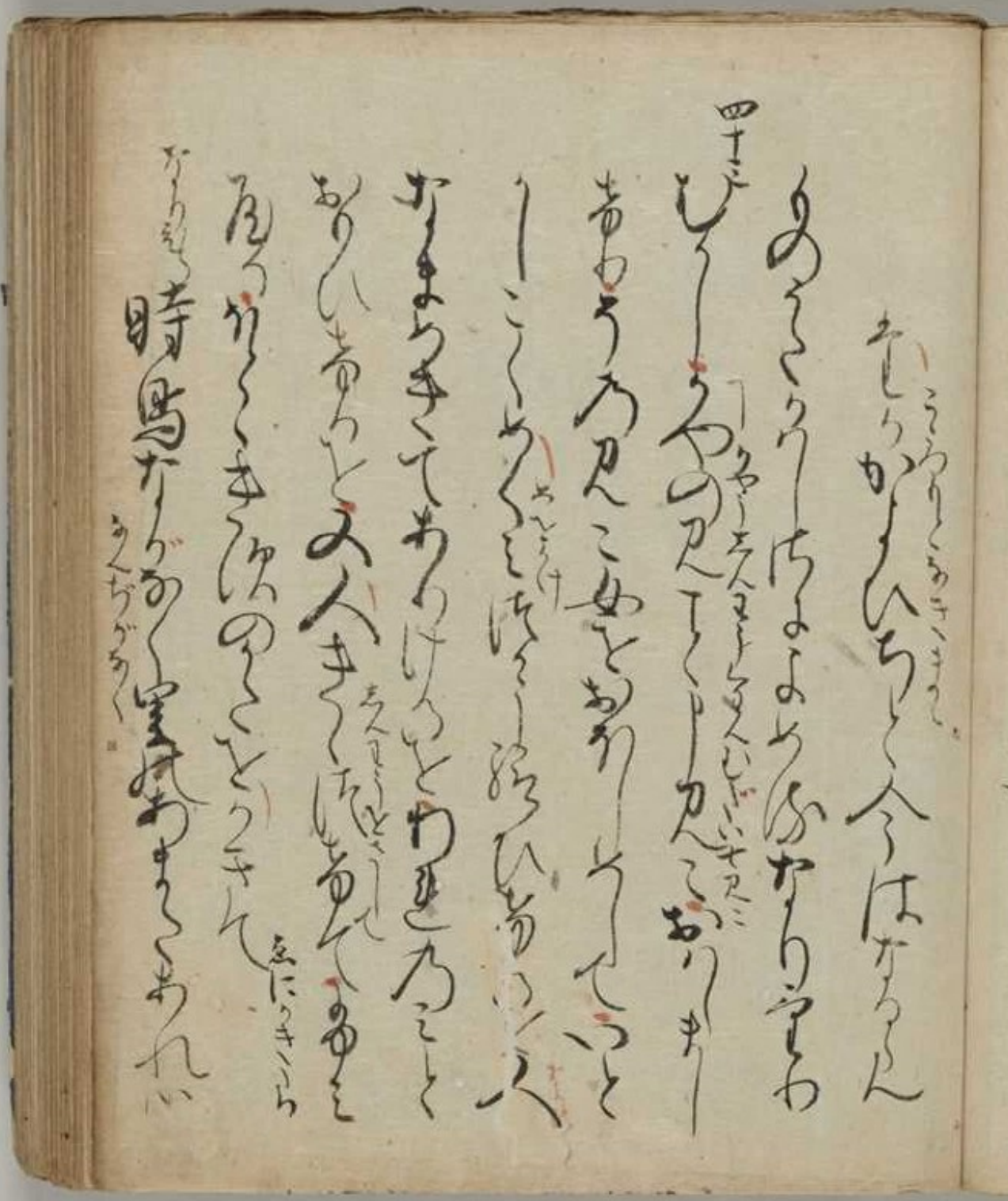
ひさしくんなりて

四十二

ひとりおとこ、こゝろこゝろにもの思ふ女となん
ひとりものゐたりけるとこゝろふかくなりにけり
さりけれども、いまはけしきなかりけり
ものゝこゝろをしりてこゝろにいそぐ
えあらじかりけるかなしさにえ
さりあへぬ中なりけれど三日三日
さげすごしてありてえいそかくなむ
いてゝとしてけるふつまくそしを

しらかしひとりとなんはなるん

あさうちよりふかなりぬわ



[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

四月

[illegible]

[illegible]

[illegible]

せしもそしらびてうとましかりけるとぞ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

四十七

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

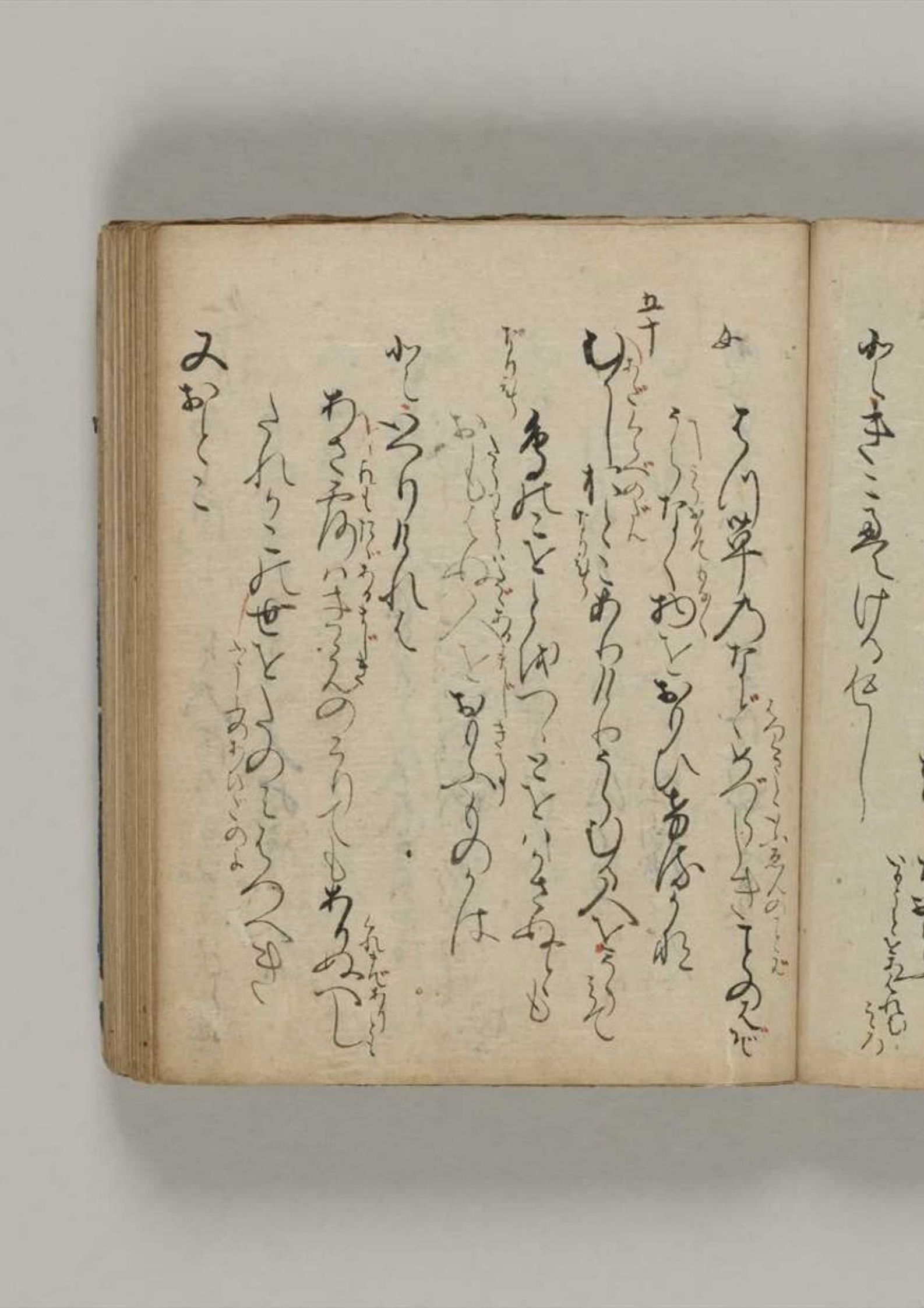
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



[illegible]

[illegible]

[illegible]

わぐらべたるにそけるおとこ女ものび

ありきえけるいとなりべし

五十一

ひとりおとこ人乃せんざいよまうす

あるへて

かりそめうゑしうゑば秋なれにけりかちうえん

こまん

花ちるちるあ紅葉ちるもえもえや

五十二

ひとりおとこありけり人乃ものもとか

ぞわちまきとをとせそらけるをしに

あやしわえいあまにうで海ぶひけり

わ也ハ邪ハ宝 よりてうゑ海をうびき

五十三

五十四

五十五

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

秋も田でらふゆ[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

きて女房にかくなんとせよ

仏とおもふ人もしくはれたる

ものをとこ

さ月まつ花たちばなの

月のみ山ほとゝぎすこえ

ひとへの袖乃なれとかな

くひ者ゝこえありけれどあまぬよ

なりて出てゝ

空

ひとりぬるこゝはいかにまくらけつよ

ものをとこ

ものをとこ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

人のことにはさて人の国なりけり
[illegible]
いてきたるおぐるまだんぶぐるまの
こゑありけり人さてきたるあるじよ
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

せくあまりとたかくなりもせあくるに
なんぬるこのこりにうとくなりぬれども
いとれどくるる
[illegible]
くるひてまあまきてとせけもどと
てくわげにあいぢちあるんとまろ
六十とくらいのだん
ぜくらのんたけりあそれんをけ
わらしもとこまちあいそくふくもど

ひいてんもんもわるさにまことあるべ
きやうとおとしまこれをとびてかたる
ぬるものはいかなるけるくつてやうな
ばかりなりあいこなんきあるんもこと
ぞいでちひとあくすちとこれなりまき
てらしあくへいつあるけるいえ
こんなどみ申將あくせてふるそ
ふありあるいあるまきあるよいまあひ
てんちんもうのちとりてかう
なんにふくそひれてあくもうてき

なん四ふくゝひれゝあくをうてき
て移しりのうちのこゝみしぎわ
れゝ女をてこゝろゝいきれうま
乃者ゝとおてこゝかのゝに乃ゝくりき
なゝもゝせゝひゝせゝこゝのゝくゝもゝ乃
わゝをゝとゝうゝゝ
りゝをゝ上乃ゆ
ゝれゝこゝてゝうゝりゝきゝと乃ゝて
ゝうゝちゝよゝりゝわゝゝゝゝきゝれゝうゝもゝ
おゝとゝこゝのゝ乃ゝせゝやゝゝゝのゝひゝたゝわ

て人をは女なりけきこゆるを
女
こゝろもとなくもてなしたまふ
ミヤン
京にまかりのぼらんとてのこと
なれば
とおもふこゝろあるべし
その数に入りぬべきものなれば
ふとは思ひ立つべきことにあらず
とこゝろにとまりぬとも思ひなしぬ
べきものなれば
六十四
ひとりおもひ
女みたりふたりさとせさ
とけまほしけれどなりもしやうや

六十四

六十五

とんでこゝろとして、
なりけり。あとよりぢうしのもとに
ありあるかとこゝろまどうしてゝ
とこゝろ女ゐんのそらにあるをこゝ
ろゆきてとゝまりけるに女のこゝろ
よりもしたしくとりかれて女ぞくなる
ものとうびなんうくあるべきこゝろ
ばえ
なりもの日ふよりはじめてこゝにまけしけり
夫こゝろ人ありうしろ
こゝろ
こゝろしにとゝまるなるとも

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

くものそおほしきれば

[illegible]

[illegible]

[illegible]

きこゆるかぶりをよみてきこえ
つるてこゝろあることはなげけれ
てゞれいこのあはれこのこゝろあは
とゞまれたちをてらすにこゝろ
こゝろふけとこゝろよこゝろてなく
ニ月ノ三日
あもものこゝろふしもしゆものけしてく
こきん
ゝかれとれいこゝろこゝろ人ゝ間ゝ
ゝ秋ごゝいまこゝろあゝえとゝこゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ごせん　こゝもやこの世とうゐてうらう船
ちゐとあはゝとてつて入こう色のりわ
ひとつのこせこすえーに四ふとち
うゝはゝ孫こいはこのくるのまちち
きくくわよゝまきあのからちれくふゝこ
ゝのの大島こゝやくくのこのゝ山ふち
ゝのゝと月ゝちのくこゝちゝちち
わくこちやまみあそくわくちて
えくくゝゝこくこちまれゝ
ゝよりくちう孫とみくくのゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

女　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

おとこ

[illegible]

七十二

[illegible]

[illegible]

[illegible]

女

[illegible]

七十三

[illegible]

[illegible]

七十三

七十四

七十五

女

人あくこ

人のくこ

なんぢくゆえ世のつきの世の人の

はまくまんを神のたまはくう

世にわるくてくるくまき女ーなし

七十八

ひとー二条入まきちきのもぐ者ゑおこ

やとくん所くしけん時氏神にまきもの色

あるよこ乃忘にくきよちぐひあり者

お人のろくだけけいてよ別人

車に乗てくんぐくまつあり

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
おもてはたかはまのえとまつあい

[illegible]おもちちぎぐわわ世をごく
[illegible]あとまのえこようけんだう
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

春[illegible]

[illegible]

[illegible]

寺入さまも右六わらはれつ
ゆまくろふ入はまれらわもれみて
ざにまもでたてうさよ山もろのぜん
りの月こおりまもとう乃山もろの文
よ歌おくしわろらせけんぐてあも
しろくたくれらよまもてだふて
年出ろぐそよたろまもぐちくら
いまぐはろまもどしひいうこさ
ぬろしはふ月こまもろぐだふ

てんかのおもてざこころ
ゆるしけるなかふさ
ところの大将ゑでう
たゞちにわたなべやさゑ
ゑもんのぶつなをよびくだしはやいうつまき
三郎のおほいまきせし時まのうよりなる
星れを海にあらはるゝかりの体
きこゝろそなへたるまうおりしかまの
ちからをもてまつりうばうゝ
乃所なれまの乃ぞよとゝ
ぞ海ごのこたまゝ
えたるうのいと
よれまつんとゝおくまへ
かどぐんじん
ごあらまくあらはたらすばく

[illegible]
[illegible]
[illegible]

わるひとも、たゞうれかつるみしの
ひとみきんらしれうけとし
みつかしよ見つわ者つ
ひし氏乃かたうこひこしれ話つりる
もうんの乃ふ人しうこ力りるもりんあか
げこなわ者つおまさのよ見つ
ふるもう我つくよちひろりうけとうつ見ば
なりみこれうかこ見げこ
こ見はこぐうど人こ対乃人市情子
こかしひ者つわふ乃中術うひき
ひうの心こうこかわ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

八十一

[illegible]

[illegible]川のかたちは六条[illegible]に来
[illegible]
宮の神の月の[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

花乃ことゝ世のつねのことにあらねば
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

をとりてくいなんとおもふ
ひときくまひろくたかひしてはらび
ちぐつをとりこれもものさとなりとお
もふて
枕とて寄へきものとふさとせで
わきの松ばかりぞとのもふかと
くもりなき時いやましの月はこそなれ
事わけこそかりのごとりでおもふ
て者わかるつきてはらうまはる
りとおりのものとおんぐかつた

[illegible]

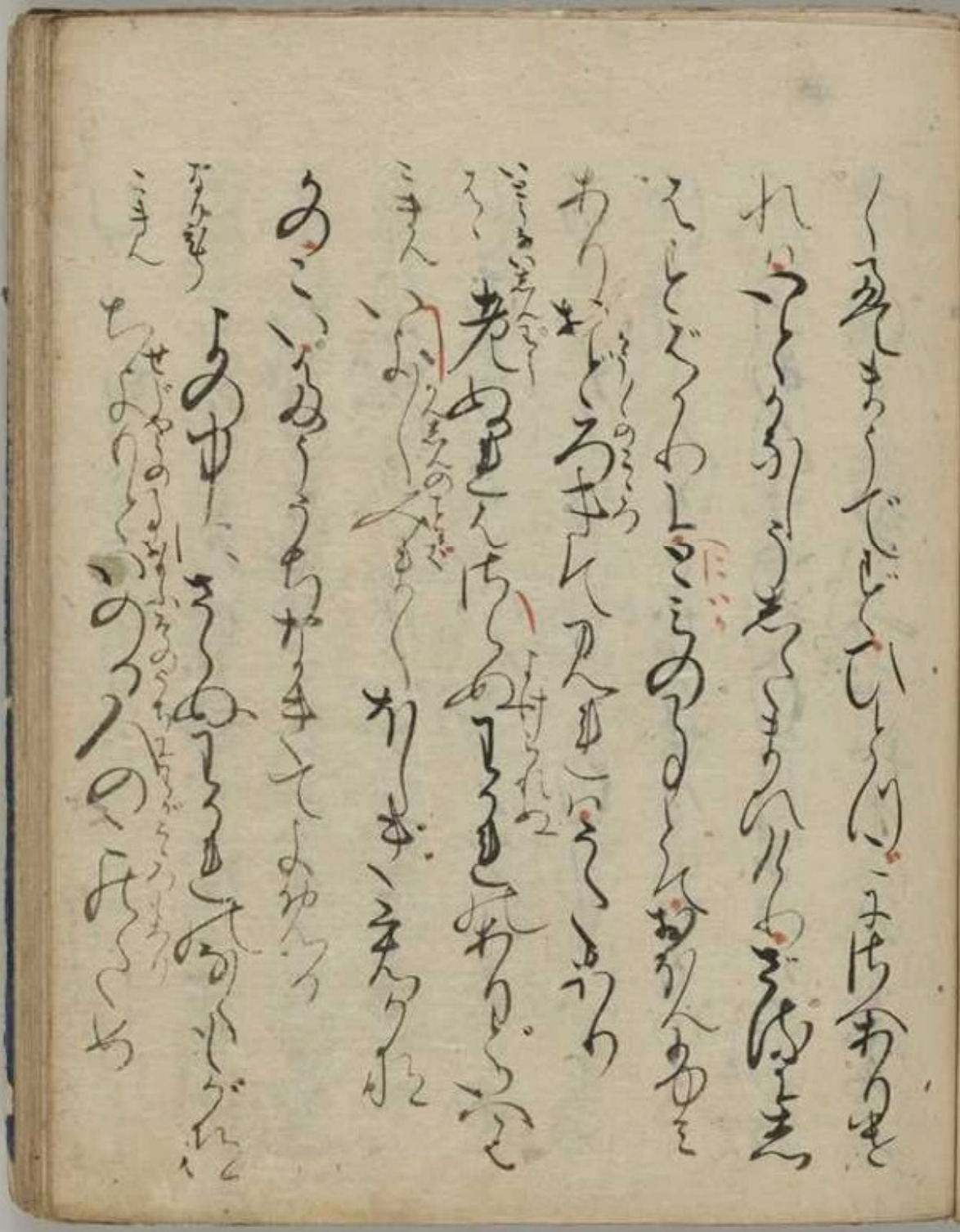
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]



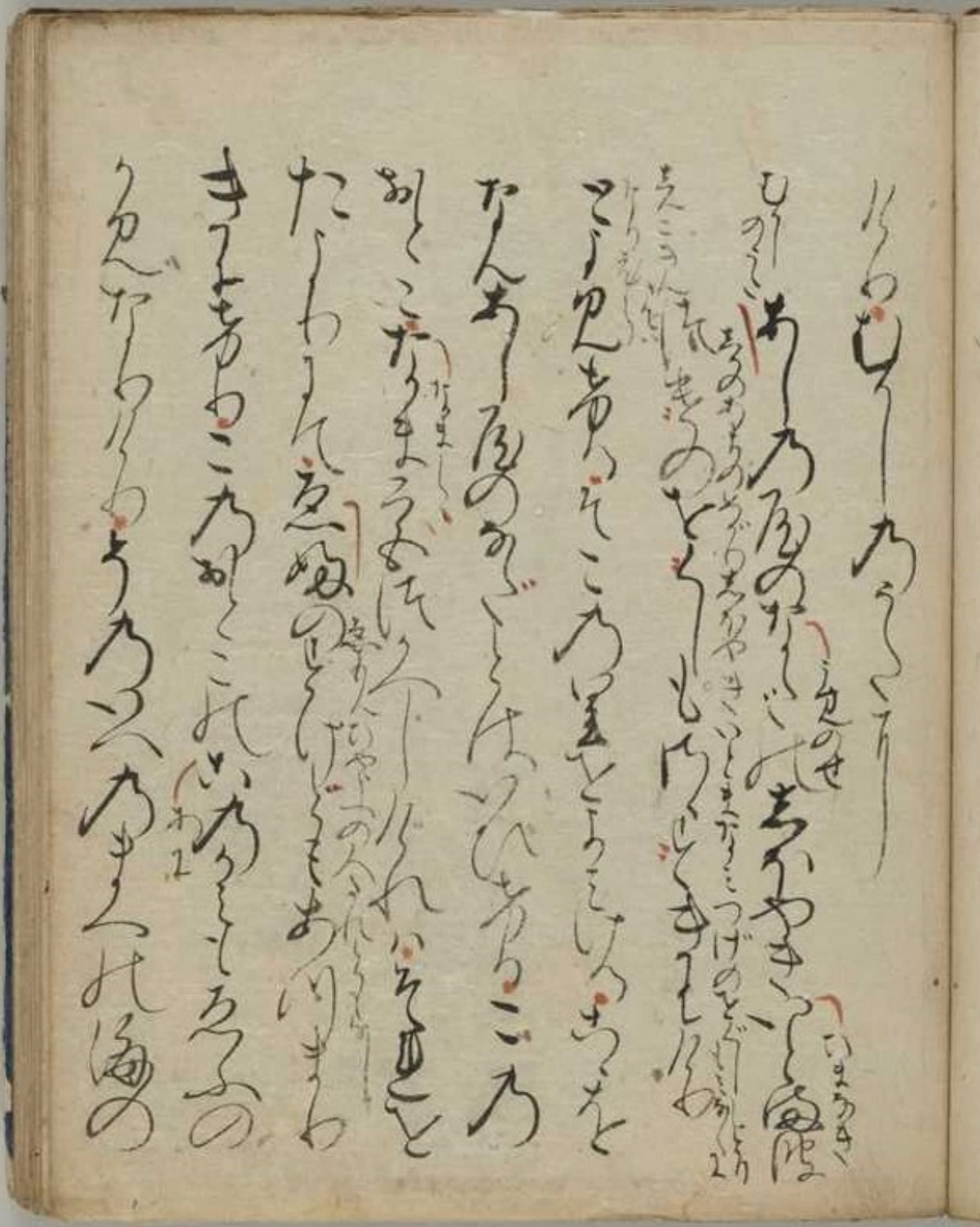
ひとつ　おもしろきこゝろばへ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

てうしはちとあるこに、ものうり出て
ありくとかけんぎ、そこはひとの宴
ちんぶ、ていうとんみくやとたなか
今まで上わとれのいへ世ものわしじ
とのがはまりとは丸ぬまい
とれあるこに、ものおくこもあるあひてふ
とものうれとうしいでとものう
八十七
ひとり男達のうふうしだとは、ものう出
やあるとり出ものうりものていきてもあ



ほくわうあそびありきて、ゐざこの山
かたをとりてふあのびきに成間
よのかたへくひて、はかりもてゆく
とれば、しばんことなりてさ二十はひ
ろさ五丈ばかりこのもとに
きあふことうちもやまてにんわ
ありけるきはにまとうさ成
ものうへとくらはれせかく

ゐざこわかきさんにほとあり、

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

八十八

ひとつとわがきふかわるあまとれく
もそもそどもありまもて月をみて
そもどがなりにひとつの
なるもの　おもしろく八月とも九月とこれどこの
三月　ながしもしでくのおくなりの
八十九

ひとつ　ふねのおくこわもとわ海
きわちくのおもしろけれゆとるけり
なるも　八月とど我立えるぐちぐきの
いづもの神よかなえるあらせん

九十

ひとつ　法師たち紀人とそでくおもへ

九十

九十一

月乃波ごとのかぐてす

なりもり

ありけるをとこの京なりける人の

ごせん

ゆきかよひけるを人のいさめけれは

九十二

ひとしれぬ思ひをさへにまつ人の

見えこそ

ぬるとはしらしとえせてよりける

ありつるこゝろたがはしとおもふらんとて

ゆきかよはしもしなくなりぬ

九十三

ひとしれぬこゝろ

ひとしれぬこゝろ

ひとしれぬこゝろ

うにこれあるゝ孫どもきりおつ八をこせ
あるゝ女ども二ゝ人かりりれいうまき
二月廿五日ゝ八ものもこゝあとゝて
ひゝ元ゝをこせざるものもゝ
ゝゝ行ゝゝものがまこゝゆるとゞ海
ゝで女ねゞゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
八をざうこゝにべきゝ八ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
なんゝゝゝゝ

あまの釣ゝ信濃ゝゝゝゝゝゝゝゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

九十五

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

かんとものどもあひよりて物語りなん
どしてをくこと
ひさかたの上をとまりてはるかなる
あまの川
あをくたりてせきとゝまいやなそよ
こたへくにとそでをあひ当わ
かしこ
ひとりおもこゝろありけりわかとくとゝ
月四上をりハこゝにまにわ孫いん
ぐそくしわ四ゝ年やうしわ
りしをの出と乃こゝろみふ月ぐわ

なわけまとは女方よりかきひらかるゝ

なりけるとは女方よりおもひかけるものゝ
てきてよもやの女ひとをさらぬまは
なるものゝ方にもいとをしきもの
りてゝ時もとゝまりとゝ花
のまへにちる人はうるとたゝむ方
ものゝまくらにいとをしうこゝろ
うの人のなくなるのんどなりてくせち
いてきてよりのちわれこそあせ
えゝこゝろにまきてはこゝろ

えでかくのごとくひろせてきこと
をかんでうまくはなしてとこせしわかごーこす
女　はなしけんこひーすくしもあるくと
このふかくしくえてこれあり
こうまことさんうこころへとこせざこ直と
やはりこんつあさんてやえもちにめしふ
まんてまくじくてやあくんあくてや
あくんへあ一所もまくじくあるとこあま
のさくてとうもてるひとうむくつ
京まこくこかはちひとくあはやあ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

九十七

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

九十八

[illegible]

おりて　あるいてまつのあるところなど月ど
ろもしらのしらりえぐいにきとつけ
てゆきてまつのとて
なるもわがこのしえるあにくあるれい
こけん　はいきどやとやとうのろとえさよおて
はいきどやとやとうのろとえさよおて
ここもんでそれてまつのあるわれいこと
じくとうあるまいしえるひてあるひて
たまつりあり
九十九
むかし　右近の　五月　音　音　音　音　音　音　音　音

五月　音高　音高　音高

右近のうまの　高　高　高

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

百

むかしせいしゃうこんのうへ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

ひらくとてあるまわうれ人の子よりは
さけわりてきてうるとあるかたち

中年藤原のもちとしのふとき家
しくさなりけるうれひあるまきまち
しるけるあきけあるへんとうと花と
きせるうの花のもとにあるき家の
花あり家わけふれるのいと六寸で
ちかへんあるうれとうとうとしてよむち
乃くへんくらあるしれなるなるあ
しきくきふてきてきてきちりれる
こうくへてよもせけりくあるれる

百三

ひとりおこりありけるを
世中とかなしうおもひ
なりて
なりもてあつかひけるを
ひとりなりけるを
人々
そしりあへりけるを
世のうきまゝにて
とかしつゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

まてしばしなげきそよ
しらつゆのなかりしかたにあらましかは
ありやとおもふかりそめにしられしものの
やゆめかうつつかとわかぬまとこそ
なりにけれとおもふこそ
世とうきものはあまりにしかとみるに
世をいかなるものとおもふ人たまへ
くまこそなりにしかはなさしかりけり

百九

百十

百七

ひとあらたまるこゝろもちのせえたるに
ところとゝ[illegible]たゝかのれる

百七

ひとあらたまるこゝろもちのせえたるに
ちとせのあゆみ[illegible]きうず吉田川
[illegible]
ひとこゝろたゝかのれる人と内記あり
[illegible]原乃[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

かりの人のおもしろきこゝろせて風もあり
とそ海ぐひよりの所てをとこ成なり
こゝゆき所をとりのあるもあるこゝ川
おとりいてゝ
こまん
神のこゝひちてあるらしあり
やしまいのこゝ
わさこゝれ神いこしはしらぶこゝは
こまん
分所ろうろうときらぶこのまん
こゝろ宮れいれこゝろこゝろそゝい
きでまして人ゝこゝにつとてありこゝむ
こゝかりれこゝゆきぬこゝとこせてこゝえて

[illegible]

[illegible]

[illegible]

百八

女

百九

百十

百十一

百十二

百十三

百十四

[illegible]

[illegible]

[illegible]

百十五

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

百十六

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

廿、

百九

百十一

百廿二

[illegible]

[illegible]

[illegible]

百廿三

[illegible]

[illegible]

[illegible]

とうひ屋てごつ〳〵もせど

百廿三

しらくもこゝろのぬるまてしとしけつ

めとあ屋〳〵あきぐさのやりひやん

ひろうとなんちんあり

年とてとろもけとこでいふ

ミきん いくぐふの第野とやなりなん

如在

ミきん 野とうばくとなりもきどん

りにふやい夫うこばん

とよりあのこゝろ

ミきんは男女のあるとやうとりとこゝろ

こきん

野とるべくばかりとなりてもまきとるん

ちりにふやい夫うこげん

とよりもの者ありてそでゆんとおふ

こきんと男あるとやうとどくとふこころ

人ったくるりこがわ

百四

しゅ

おとこうなりけるとおひ

まごころき

ものおりてりよりは

ちりおりてこへそでそでにやうんぐま

ちりてこりとけがうとうとこへ

れとひくまきへとうでるけるは

百四五

しゅ

おとこうづへて人ちもあぐく

ちせいかうき

おはしゅしで

なりぬ井とゆうたはよりてきしで

ミさゝ
きのふ
まのふ
ゝ
ゝ
ゝ

抑伊勢物語根源古人説〻不同或云
在原中將自記〻因茲有違退此
興之詞芽子又云伊勢公事作也（或云生年十三幼書之）
似彼家集文躰也故号伊勢物語
〻此歟説業之更難決之心中秘密
身上興言他人推而難定之心之可
謂其自書歟似疑業古風中
多載撰集之奇仁和聖日之間
粗記源章之儀此芽事又不審

伊勢家集其端文躰備〻同之也
又見先達舊記庶幾其躰欲而不知
之加之此物語名字非故実者何稱
伊勢乎或説云為將使下向伊勢仍
有此名其説又雖信始則載南京
春日之詞次又注西對衣月之思富
士山之雪武藏野之煙凡伊勢國事
多〻為此物語之肝心仍説共有不
審古事口伝信又或説後人〻將使

事改為此草子之端為叶伊勢物語

凡人考此物語之肝心仍説共有不
審古事口伝信文或流後人〻將使
事改考此草子之端考叶伊勢物語
之道理也件本狼籍奇怪者也
伊行不為也不可用之
先年不書〻本為人彼借失
仍考備證本重不接合也
戸部尚書 左判

此物語古人之説不同或稱在中將之自
書或稱伊勢之筆作就古此之書落

事亦上古之人強不可易其作者只
可翫詞花言葉而已

戸部尚書 左判

以前文卿其筆本未遠一字
書写授合之可備御本矣

藤為相

於石列大森大久保外記殿

於石列大森ニ大久保外記殿
本ゝ写ス　藤原利房
慶長拾三年　十月廿七日